

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 市川市立大野小学校

(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒272-0804

市川市南大野 1-42-1

E-mail work3-ohno@ichikawa-school.ed.jp

Website http://www.ohno-syo.ichikawa-school.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 362 名 女子 376 名 合計 738 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「自主・自律・共生」を学校理念とし、ESD の実践を通し、進んで参加する《参加》・つながりを尊重する《関連》・他者と協力する《協力》の 3 つの力を育成することを目標とした。具体的には、自主・自律・共生を柱に①自主・自律に関わる活動②共生に関わる活動を行った。

第 6 学年「2020 年オリンピック開催！わたしたちにできること」では、オリンピック開催に向けて自分たちに何ができるかを考えることを通し、自国や他国の文化に対する知識と理解を深めるとともに、オリンピックに参加しよう・多様な人と関わりを持とうという意識から進んで国際理解したり、自国の文化を大切にしたりしようとする態度を育てる活動をした。

① 自主・自律に関わる活動

a. 進んで参加する態度の育成《参加》をするために、オリンピック開催に向けて自分たちに何ができるかを考えさせ、具体的にその実現に向けて調べ学習や実践を行った。オリンピックが開催される際に、どんなことが日本に（私たちの身に）起きるのかについて多面的・総合的に捉え、そこから自分たちがやるべきことを考えた。子どもたちからは、英会話ができるようになる・困った人を助ける方法・日本の魅力を伝える（日本の伝統文化を知る）・起きるかもしれない危険に備えて護身術を身に付ける・会場等の道案内ができるようにする・日頃から街をきれいに保つことが大切等の意見が出た。それらについて具体的に小学生の自分には何ができるかを考えさせ、集団や社会の中で自分なりの考えを持ち、自分の役割を踏まえた上で、物事に自主的に参加しようとする態度を育てることができ

ようにした。また、その活動がこの先続けられるものかどうかということを中心にし、子どもたちがこの先も進んで社会の事象に関心を持ち、自分ができることを考えていくことができる子の育成も目指した。

- b. つながりを尊重する態度の育成《関連》をするために、身近なはずではあるけれど、他人事になりがちなこと目に向けさせた。ちょうど 2018 年は韓国で冬季オリンピックが開催されたこともあり、子どもたちの中でオリンピックの存在はあったが、自分とのつながりは感じられていない児童が多かった。そこで、自分たちとオリンピックのつながりを考える場をしっかりと設けることで、人・社会・ことがらと自分との関わりについて関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度を育てられるようにした。

② 共生に関わる活動

他者と協力する態度の育成《協力》を目指し、自分たちができることを考えたり進めたりしていく上で、クラスの仲間と協力することはもちろん、活動 a のように多面的・総合的に考えることで、自国だけでなく、外国の人にも目に向け、協力・協同して物ごとを進めようとする態度を育てることができるようにした。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ウェブサイト
推進拠点校としての活動成果の発信はできなかった。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年で計画は立てられているがユネスコスクールとしての位置づけが弱かった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌で位置づけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価は十分にはできなかった。
--

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

総合的な学習の時間の一環として地域の団体等との連携はあったが、ユネスコスクールとしての取り組みとしては弱かった。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流はなかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

総合的な学習の一環としては取り組んだが、ユネスコスクールの活動としての特筆すべきものには至らなかった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

各学年の総合的な学習の時間で取り組む予定。